

■第2期奈良県スポーツ推進計画 関連事業

資料7

だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり

1 スポーツ参加の推進（体を動かす）

	【施策】	【取組の方向】	【担当課】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R3>	<R4>	<R5>	<R5目標値>	
1 県民参加型スポーツの推進	(1) 総合型地域スポーツクラブの連携強化	総合型地域スポーツクラブ間の連携強化	スポーツ振興課	○スポーツ支援センターの運営	支援センター運営のため会計年度任用職員を雇用し、総合型地域スポーツクラブの育成・充実を図る	連綿協議会への加盟・非加盟にかかわらず、総合型として活動を希望するクラブをサポートし、多様な活動主体の確保につながっている。	●総合型地域スポーツクラブの会員数（人）	14,315	14,461	調査中	20,000	
				○奈良県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の運営	連絡協議会に負担金を拠出するとともに、事務局を運営、加盟クラブへの各種支援、交流大会の実施、講習会の開催などによりクラブの育成・充実を図る 【参考資料2-1】	総合型のうち、連絡協議会に加盟するクラブに対して、充実した支援メニューを提供し、質的向上につながっている。	●法人格を有する総合型地域スポーツクラブの割合（%）	47.1	41.5	43.1	70.0	
	(2) 総合型地域スポーツクラブの活動支援	総合型地域スポーツクラブの育成・活動充実	スポーツ振興課	○クラブアドバイザーによる巡回指導	クラブアドバイザーによるクラブや市町村の巡回訪問、指導。	クラブの課題や要望を把握し、市町村の総合型への理解促進などによりクラブの支援や、新たなクラブ設立につながっている。	クラブアドバイザーの巡回回数（回）	クラブ67回 市町村3回	クラブ72回 市町村5回	クラブ27回 市町村0回	-	-
				○アシスタントマネージャー養成講習会の開催	クラブの安定的運営に資するマネジメント人材育成のため、講習会を開催 【参考資料2-1】	クラブの安定的な運営のために必要な人材の育成につながっている。	講習会受講者数 資格取得者数	受講者14名 資格取得10名	-	受講者10名 資格取得10名	-	-
				○スポーツ支援センターによる総合型地域スポーツクラブの育成支援	スポーツ振興課が支援センター業務を担い、クラブアドバイザーを配置。	連絡協議会への加盟・非加盟にかかわらず、総合型として活動を希望するクラブをサポートし、多様な活動主体の確保につながっている。	-	-	-	-		
				○持続可能な活動に向けた新たな仕組みづくり	高齢化などにより自立活動が困難なクラブの増加が見込まれる中、共同運営など持続可能な新たな仕組みづくりを検討。	連絡協議会への加盟・非加盟にかかわらず、総合型として活動を希望するクラブをサポートし、多様な活動主体の確保につながっている。	-	-	-	-		
	(3) 総合型地域スポーツクラブによる学校部活動の受け皿づくり	モデル校等での実証実験	スポーツ振興課	○総合型地域スポーツクラブとの連携事業の実施	総合型と学校との連携のため、モデル地域において学校とクラブの交流事業やクラブの指導者を学校部活動に派遣。	「奈良県部活動改革検討委員会」を開催し、部活動の地域移行について共通理解や連携を図ることができた。	指導者派遣回数	-	-	17	-	
	(4) 県民が参加しスポーツを楽しむイベントの開催	季節に応じた魅力的なスポーツイベント等の企画・開催	スポーツ振興課	○ならスポーツフェスティバルの開催	ならスポーツフェスティバル（旧 県民体育大会）の総合開会式を開催	県民にスポーツの楽しさ・喜びを体験してもらえらる場となっている。	奈良スポーツフェスティバル参加者数（人）	中止	6,839	8,389	-	-
				○飛鳥RUN×2リレーマラソン大会の開催	幅広い世代、立場の人が参加するリレーマラソン大会を開催	幅広い世代、立場の人々が参加するリレーマラソン大会を開催することで、人々のスポーツに関する意識を高め、スポーツ習慣を定着させ、県民の体力向上や健康維持につながっている。	飛鳥RUN×2リレーマラソン大会参加者数（人）	442	775	1,016	-	-
				○健康トレーニング教室等の開催	健康保持増進と体力づくりを目的に、様々な年齢層の人々が、気軽に参加できるスポーツ教室を開催	体力づくりだけではなくスポーツ教室を通じて参加者の交流にもつながっている。	スポーツ教室参加者数（人）	4,360	4,813	-	5,000	
○奈良和スポーツのメッカづくり事業			奈良和の特色を活かしたスポーツのメッカ事業実行委員会を支援。また、地元プロサッカークラブの春期キャンプや地元交流体験を実施	プロサッカークラブとの交流により、地元住民が地域とサッカーとの繋がりを再認識し、郷土愛の醸成につながっている。	交流イベント参加者数（人）	-	16	-	30			
(5) 奈良マラソンの開催	シンボルイベントとしてさらに進化	スポーツ振興課	○奈良マラソンの開催	満足度の高いイベントとして進化させるとともに、宿泊・飲食、周辺観光、地域との交流に結びつけて地域活性化も図る 【参考資料2-2,2-3】	創年、12月第1週の土日にフルマラソン、10km、3kmで開催。県内外から17,000人以上が参加、県内における最大規模のスポーツイベントであり、県民をはじめとする参加者の健康増進、オフシーズンの観光振興に資するとともに、県全体の活性化にも寄与。	奈良マラソン参加者数（人）	7,435	11,034	14,993	-	-	
2 子どものスポーツの推進	(1) 幼児期のスポーツ（遊び・運動）の推進	子どもが楽しく体を動かすことができる環境づくり	健康・安全教育課 奈良っ子はくみくみ課	○幼児期の運動や遊びに関する研修の実施	幼児期運動指針等に基づく幼稚園や保育所等での外遊びや体操の推進	指導者研修会を実施するなど、幼児期に適した運動の理解や運動習慣の定着につながっている。	-	-	-	-	-	
			公団緑地課	○まほろば健康パークの機能強化の検討	コースの把握や他の既存施設とは異なる付加価値の提供等について検討	12月にまほろば健康パークにおけるインクルーシブ機能検討委員会を設置した。R6年度末の基本計画策定を目指す。	-	-	-	-	-	
			スポーツ振興課	○幼児向け運動、スポーツプログラムの普及	総合型地域スポーツクラブと連携して幼児向け運動、スポーツプログラムを活用	就学前児童の健やかな成長を促進するとともに総合型地域スポーツクラブの育成・充実につながった。	就学前児童層に総合型地域スポーツクラブの割合60%以上	29.2	30.8	調査中	60.0	

【施 策】	【取組の方向】	【担当課】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R3>	<R4>	<R5>	<R4目標値>
(2) 子どもの体力向上の方策の推進	子どもの体力向上に向けた取組、体育指導の充実・発展、教員の指導力と資質向上	健康・安全教育課	○外遊び、みんなでチャレンジ!	県HPで各学校で子どもが休み時間にチャレンジできる遊びを紹介し、記録を登録・公表	様々な種目にチャレンジすることにより、運動習慣の定着につながっている。		-	-	-	-
	地域でのスポーツ参加機会の充実	スポーツ振興課	○市町村対抗子ども駅伝大会	県内在住の小学校5・6年生男女が参加する市町村対抗子ども駅伝大会を開催	H17年度からスタート、全39市町村が参加し、一体となって開催するイベントとして定着。子どもたちの体力向上や、温帯感の醸成などに寄与。のちにパラリンピック日本代表や、都道府県対抗駅伝選手として活躍する子どもたちも。	市町村対抗子ども駅伝大会参加者数(人)	中止	275	3/2 実施前	-
	子どもとアスリートとのふれあいの機会の創出	スポーツ振興課	○トップアスリートとの交流イベントの開催 ○子どもたちをプロスポーツ試合等へ観戦招待	ウエスタン・リーグ公式観戦と出場選手(又は元プロ野球選手)による少年少女野球教室を開催 【参考資料2-4】	子どもたちがトップアスリートと直接ふれあうことで、スポーツに親しむ機会となり、県内スポーツの活性化につながっている。	参加者数(人)	-	314	145	-
	専門知識を有する地域の人材の活用		○部活動指導員配置促進事業 ○地域スポーツクラブ活動体制整備事業	中学校に部活動指導員を配置する市町村を補助 県立学校に部活動指導員を配置 休日の運動部活動の地域スポーツクラブへの移行に関する実証事業	配置を希望する市町村への補助を通じて、専門的指導者不在や教員の働き方改革につながっている。		-	-	-	-
(3) 学校部活動の地域スポーツクラブ活動への移行	多様な主体と連携した学校部活動及び新たな地域クラブ活動の体制づくり		○地域スポーツクラブ活動体制整備事業【再掲】	関係各団体の代表者を委員とする検討委員会を設置。地域移行を含む学校部活動の在り方について検討を進めている。R5は3回開催(6月、11月、2月)	R5年度は、11市町で実証事業に取り組んでいる。人材確保や受益者負担に対する保護者理解を得ることなどが課題として挙がっている。	地域移行実証事業に取り組む市町村数	2市町	3市町	11市町	-
	地域移行に関する方針づくり	健康・安全教育課	○地域スポーツクラブ活動体制整備事業【再掲】	部活動改革検討委員会の開催 奈良県版「(仮称)部活動地域移行の手引き」の作成	関係各団体の代表者を委員とする検討委員会を設置。地域移行を含む学校部活動の在り方について検討を進めている。R5は3回開催(6月、11月、2月)		-	-	-	-
	地域での様々なスポーツ団体活動の支援	スポーツ振興課	○後援、表彰によるスポーツ団体活動の支援	スポーツ団体事業の後援や表彰によりスポーツ団体活動を支援	地域スポーツ振興貢献者へのサポートにつながっている。	後援・表彰件数	60	67		
(4) 子どものスポーツ活動環境の充実	地域で子どもが家族や友だちと一緒に参加できるスポーツ教室、イベントの開催	スポーツ振興課	○飛鳥RUN×2リレーマラソン大会の開催【再掲】 ○市町村対抗子ども駅伝大会の開催【再掲】	幅広い世代、立場の人が参加するリレーマラソン大会を開催 県内在住の小学校5・6年生男女が参加する市町村対抗子ども駅伝大会を開催	幅広い世代、立場の人が参加するリレーマラソン大会を開催 H17年度からスタート、全39市町村が参加し、一体となって開催するイベントとして定着。子どもたちの体力向上や、温帯感の醸成などに寄与している。	飛鳥RUN×2リレーマラソン大会参加者数(人)	442	775	1,016	-
						市町村対抗子ども駅伝大会参加者数(人)	-	275	3/2 実施前	-
3 生涯スポーツの推進	(1) 子育て世代、働き盛り世代のスポーツの推進	スポーツ振興課	○身近にスポーツができる施設の情報発信	県HPやSNS(Instagram・YouTube)を活用し、スポーツ情報発信を促進	R5年度は、新たに奈良スーパーアプリによる施設予約を橿原公園で先行実装。今後は市町村にも利用を広げる。		-	-	-	-
			○奈良マラソン大会の開催【再掲】	満足度の高いイベントとして進化させるとともに、宿泊・飲食、周辺観光、地域との交流に結びつけて地域活性化も図る 【参考資料2-2、2-3】	例年、12月第1週の土日にフルマラソン、10km、3kmで開催。県内外から17,000人以上が参加、県内における最大規模のスポーツイベントであり、県民をはじめとする参加者の健康増進、オフシーズンの観光振興に資するとともに、県全体の活性化にも寄与。	奈良マラソン参加者数(人)	7,435	11,034	14,993	-
			○飛鳥RUN×2リレーマラソン大会の開催【再掲】	幅広い世代、立場の人が参加するリレーマラソン大会を開催	幅広い世代、立場の人が参加するリレーマラソン大会を開催することで、人々のスポーツに関する意識を高め、スポーツ習慣を定着させ、県民の体力向上や健康維持につながっている。	飛鳥RUN×2リレーマラソン大会参加者数(人)	442	775	1,016	-
			○橿原公園ナイトランの実施	一般ランナーからアスリートを目指す人まで、また、子どもから高齢者まで、誰もが運動・スポーツを楽しむことができる場づくりとして、橿原公園陸上競技場の夜間無料開放を実施 【参考資料2-5】	幅広い世代、立場の人々が利用し、現在では県民に定着している。R6年度は実施日を増やす方向で調整。	ナイトラン参加者数	13,150	18,782	30,000	-
(1) 子育て世代、働き盛り世代のスポーツの推進	運動・スポーツに取り組むきっかけづくり	健康推進課	○世代の健康づくり事業	肥満や運動不足等の健康課題の多い世代(1世代)を対象に、事業所等と連携した健康支援及び健康情報発信	R5年度は、県内22事業所で健康づくり実証セミナーを実施予定。奈良市内の事業所に対する地域支援について、奈良市保健所との役割分担が必要。	運動習慣者の割合(20~64歳)	男性:42.3% 女性:40.4%	男性:44.2% 女性:41.3%	男性:61.2% 女性:58.1% (R16)	-
	スポーツ・運動の情報やコンテンツなどの発信・配信	スポーツ振興課	○公式YouTubeによる情報発信	奈良県内で開催するスポーツイベント等に関するPR動画やスポーツ振興事業を情報発信	SNS(Instagram・YouTube)をさらに活用し、情報発信力を強化する。		-	-	-	-
(2) 女性のスポーツ推進	子どもでも女性がスポーツを気軽に楽しめるために必要な設備や機能の充実、情報発信	スポーツ振興課	○橿原公園スポーツ教室	橿原公園ジェイテクトアリーナ奈良において、ストレッチやエアロビクス等によるトレーニング教室、バドミントン、ソフトバレー、ソフトテニス等の教室。5歳程度の子どもと親を対象とした親子体験教室を実施。(参加者のほとんどが女性)	気軽に楽しく体を動かす機会の提供に寄与している。今後、女性のニーズや意欲に応じたスポーツ機会の拡大を図る。	スポーツ教室参加者数	4,360	4,813	5,000	-
(3) 高齢者のスポーツ推進	高齢者が運動・スポーツに取り組む環境づくり	健康推進課	○健康ステーション市町村連携協働事業	健康ステーションの設置に対する市町村補助	R5年度、王寺町と下市町が新たに健康ステーションを設置。合計県内6市町村に設置。今後は未設置市町村への働きかけが必要。	運動習慣者の割合(65歳以上)	男性:56.9% 女性:59.0%	男性:60.5% 女性:60.9%	男性:66.1% 女性:77.4% (R16)	-
		長寿・福祉人材確保対策課	○高齢者のスポーツ文化交流大会(シニア元気フェスタ)の開催	高齢者のスポーツ活動等の「励み」や「発表の場」となる大会を開催	高齢者のスポーツ活動等の「励み」や「発表の場」となる大会を開催 高齢者のスポーツ活動等の推進強化につながっている。	ならシニア元気フェスタ参加者数(人)	中止	2026	2200	2300

【施策】	【取組の方向】	【担当課】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R3>	<R4>	<R5>	<R4目標値>
(4) 運動・スポーツのきっかけづくり	運動の機会が少ない人や運動に興味のない人へのきっかけづくり	スポーツ振興課	○身近な運動普及啓発事業	山間部など地理的条件などで運動やスポーツに接する機会が少ない人に対し、身近に実践できる取り組みを啓発 【参考資料2-6】	普段体を動かす機会が少ない山間部（R5年度は5村）の住民を対象に、元オリンピック日本代表選手を招いて運動教室を実施。運動することの大切さ、楽しさの再認識につながった。これを機に市町村で身近な運動を推進する取り組みを実施してもらえようように働きかけていく。	参加者数			145名	
		スポーツ振興課	○運動のきっかけ創出事業	運動やスポーツに接する機会が少ない人に対し、身近に実践できる取り組みを啓発。R5年度はアシックスとの連携事業において、集客施設において体力測定会を実施。【参考資料2-7】	無関心層への働きかけにより、運動・スポーツに取組むきっかけづくりにつながった。	体力測定会参加者数			909名	
		スポーツ振興課	○ふらっと&ちよこっと運動推進事業	運動に興味のない人が、ふらっと立ち寄った場所で、ちよこっと運動ができる環境と軽スポーツ体験等ができる機会を創出するため、県内施設で健康・スポーツ機器を常設し、運動に興味がない人に対するアプローチにつなげる。 【参考資料2-8】	R5年度新たな取り組み。今後も無関心層へのきっかけづくりにつなげる。		-	-	-	-

4 障害者スポーツの推進

(1) スポーツを通じた共生社会の実現	障害の有無に関わらず参加できるイベント開催	障害福祉課	○奈良県障害者軽スポーツ大会の開催	障害者が気軽に参加できる軽スポーツイベントを開催						
		スポーツ振興課	○ポッチャや車いすバスケットボール体験会等の開催	企業版ふささと納税による寄付金を活用し、ポッチャや車いすバスケットボール体験会をプロバスケットチームであるバンビジャス奈良のホームゲームと連携して開催 【参考資料2-9】	バンビジャス奈良のホームゲームと連携して2回実施。企業と一体となり地域スポーツの推進にも寄与。	参加者数	51	37	34	
(2) スポーツに取り組む機会の充実	障害者の社会参加の促進及びスポーツに取り組む機会の充実	障害福祉課	○健康教室、障害者スポーツ教室の開催	奈良県心身障害者福祉センターで、スポーツ・文化創造に関わる教室を開催	スポーツ等を通じて、障害者の社会参加の促進を図るとともに障害者スポーツの普及振興に寄与。	参加者数	-	49		
		障害福祉課	○奈良県障害者スポーツ大会の開催	全国障害者スポーツ大会への出場選手の選考にも繋がる大会を開催						
(3) 障害のある人がスポーツを楽しむことができる環境づくり	総合型地域スポーツクラブ等での障害者スポーツの取組支援 身近な地域で、日常的かつ継続的にスポーツができる環境づくり	スポーツ振興課	○障害者スポーツの支援	身近な地域でスポーツを楽しむことができるよう総合型地域スポーツクラブによる障害者スポーツの取り組みを支援	クラブの課題や要望を把握し助言、市町村の総合型への理解促進などによりクラブの支援や、新たなクラブ設立につながっている。		-	-	-	-
		障害福祉課	○奈良県心身障害者福祉センター運営	障がい者を対象にスポーツ教室や文化教室を定期開催	スポーツ等を通じて、障害者の社会参加の促進を図るとともに障害者スポーツの普及振興に寄与。		-	-	-	-
(4) 障害者スポーツを支える人材の育成	スポーツ指導者の養成、指導力の向上、派遣	障害福祉課	○障害者スポーツ指導員養成講習会の開催	公認障がい者スポーツ指導員の「初級障がい者スポーツ指導員」の資格取得に向けての講習会を開催	障害者が各地域でスポーツに参加できる環境づくりに寄与。	参加者数	21	23	12	
		障害福祉課	○障害者スポーツボランティア人材バンク・スポーツボランティア登録の推進	上記修了者に対して、障害者スポーツボランティア人材バンクに登録依頼 市町村等へスポーツボランティアの派遣等を実施	障害者が各地域でスポーツに参加できる環境づくりに寄与。	登録者数	199	224	236	

II スポーツの推進を支える人材の育成（人を育てる）

1 人材の育成（コーディネーター・マネジメント・指導者）

【施策】	【取組の方向】	【担当課】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R3>	<R4>	<R5>	<R4目標値>
(1) スポーツ指導者、マネジメント人材の確保、養成	人材の確保、養成、活用に向けた取組の推進 スポーツ指導者の資質向上 医療分野の知見を補えた人材の育成	スポーツ振興課	○スポーツ人材育成勉強会の開催	国民スポーツ大会先遣員等におけるスポーツ人材育成実施状況等を視察。スポーツ人材育成勉強会を開催し、奈良県のスポーツシーンの人材の充実を図るための方針を検討。	国スポ大会開催を契機とした持続性のある競技力向上のための体制を構築。R6年度より奈良県競技力向上推進本部（仮称）を設置予定。	-			-	
		スポーツ振興課	○スポーツ推進委員協議会の運営	スポーツ推進委員協議会による指導者向け研修等の実施	スポーツ推進委員の資質向上につながっている。	初任者研修参加者数（人）	33	33	38	40
		スポーツ振興課	○指導者育成強化事業	安心・安全にスポーツに取り組めるよう医療分野の知見を補えた人材を育成	令和6年度より県内大学とも連携した人材育成を検討。					
(2) 障害者スポーツ指導者等の養成【再掲】	障害者スポーツ指導者の養成、指導力の向上、派遣【再掲】	障害福祉課	○障害者スポーツ指導員養成講習会の開催【再掲】	公認障がい者スポーツ指導員の「初級障がい者スポーツ指導員」の資格取得に向けての講習会を開催	障害者が各地域でスポーツに参加できる環境づくりに寄与。	参加者数	21	23	12	
		障害福祉課	○障害者スポーツボランティア人材バンク・スポーツボランティア登録の推進【再掲】	上記修了者に対して、障害者スポーツボランティア人材バンクに登録依頼 市町村等へスポーツボランティアの派遣等を実施	障害者が各地域でスポーツに参加できる環境づくりに寄与。	登録者数	199	224	236	

2 選手の育成

(1) 競技団体を通じた競技力の向上	各競技団体等の戦略的強化活動を支援	スポーツ振興課	○競技団体等の競技力向上への支援	各競技団体等に対して育成支援、指導を行う奈良県スポーツ協会に対する事業補助	国スポ大会開催を契機とした持続性のある競技力向上のための体制を新たに構築。R6年度より奈良県競技力向上推進本部（仮称）を設置し、支援を強化。		-	-	-	-
(2) 国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会に向けたアスリートの育成	ジュニアアスリートの発掘・育成、強化支援 国スポ・全スポへの奈良県選手団の派遣	スポーツ振興課	○トップアスリート・ジュニアアスリート育成（指導者育成事業）	2031年に奈良県で開催される国スポ大会や将来国際大会で活躍が期待できる、優れた素質を有するジュニアアスリートの発掘・育成 【参考資料2-11,2-12,2-13】	R5年度よりR13年開催の国体や世界大会等で活躍が期待できる、優れた素質を有するジュニアアスリートを発掘するため、スポーツ能力測定会を開催。定員を大きく上回る応募があった。測定会の結果から選抜した優れたスポーツ能力をもつジュニアに育成プログラムを実施。	育成プログラム参加者数			69名	
		スポーツ振興課	○国民体育大会への奈良県選手団派遣	奈良県選手団を派遣する奈良県スポーツ協会に対する事業補助		選手団参加人数		354	386	
		スポーツ振興課	○指導者育成強化事業（奈良県スポーツ協会補助）	奈良県スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会	国スポ大会開催を契機とした持続性のある競技力向上のための体制を構築。R6年度より奈良県競技力向上推進本部（仮称）を設置予定。					
(3) 競技スポーツの成績優秀者への表彰	成績優秀選手の表彰	スポーツ振興課	○奈良県スポーツ特別功労賞	オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会等において第三位までに入賞した者並びに同大会等において活躍するなどこれに準ずる業績があると認められる者（県民栄誉賞等特例の賞を受賞した者は除く）を知事が表彰	県民のスポーツへの意欲の高揚につながっている。		-	-	-	-
		広報広聴課	○県民栄誉賞の授与	世界的規模（オリ・パラ）で活躍した者を知事が表彰			-	-	-	-

	【施策】	【取組の方向】	【担当課】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R3>	<R4>	<R5>	<R5目標値>
	(4) バラスポーツ選手の発掘・育成	競技性が高い障害者スポーツの選手発掘や練習会	スポーツ振興課	〇パラリンピックタレント発掘事業（水泳）	関西広域連合事業。府県単位では強化・育成が難しいアスリート向け練習会を開催 【参考資料2-14】	今後、より多くのアスリートに参加してもらえよう参加者の拡大に取り組む。	参加者数	中止	4名	10名	-
		バラスポーツ強化に向けた体制整備	スポーツ振興課	※障害者スポーツ協会と連携した、競技人口拡大や競技団体の整備など	どこでも多様なスポーツができる環境を整備し、関係機関と連携しバラスポーツの競技力向上を推進	橿原公園再整備等において、だれもが多様なスポーツをすることができる環境づくりに取り組む。	-	-	-	-	
	(5) アスリートとキッズ・ジュニアの交流を通じた競技力の向上	アスリートと子どもたちの交流を通じた競技力の向上	スポーツ振興課	〇プロスポーツとの連携事業（少年少女野球教室）	ワエスタン・リーグ公式戦観戦と出場選手（又は元プロ野球選手）による少年少女野球教室を開催 【参考資料2-4】	子どもたちがトップアスリートと直接ふれあうことで、スポーツに親しむ機会となり、県内スポーツの活性化につながっている。	参加者数	-	314	145	-
				〇「まってる！花園」（ラグビー交流試合）の開催	「全国高校ラグビー大会」の開催時期にあわせて小・中学校を対象とする交流試合等の機会を設けることで、県内のラグビー競技力向上のための土台強化を図る 【参考資料2-15】	県内ラグビーの裾野拡大、競技力向上、にぎわい創出につながっており、ラグビー競技の普及・振興に寄与している。	参加者数	1,489	900	840	-
3 サポート体制の整備	(1) スポーツボランティア等の人材育成	スポーツを「支える」人材の育成・増加	スポーツ振興課	〇スポーツボランティア登録制度の運用	スポーツボランティアの登録制度を運用し、奈良マラソンをはじめ、プロスポーツチーム（バンビヤス奈良）のホームゲーム、プロ野球ワエスタン・リーグの公式戦、体験イベント、総合型地域スポーツクラブのスポーツ教室等、様々なイベントへ、ボランティアを仲介。	奈良マラソンのボランティア登録制度と連携し、相互に情報発信。	ボランティア登録者数	-	-	500名	-
	(2) 生涯スポーツ功労者等への表彰	地域のスポーツ振興に貢献したスポーツ関係者や団体の表彰	スポーツ振興課	〇奈良県スポーツ特別功労賞（再掲）	オリンピック競技大会及びパラリンピック競技大会等において第三位までに入賞した者並びに同大会等において活躍するなどこれに準ずる業績があると認められる者（県民栄誉賞等特例の賞を受賞した者は除く）を表彰	地域スポーツ振興貢献者へのサポートにつながっている。	-	-	-	-	
	(3) 様々な団体が連携したスポーツマネジメント教育の展開	様々な団体が連携したスポーツマネジメント教育の展開	スポーツ振興課	〇総合型地域スポーツクラブ連絡協議会負担金	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会においてクラブチームの経費やスポーツイベントの企画運営、人材育成などスポーツマネジメントにかかわる研修会や研究を開催。	コーディネイト、マネジメント、指導者など人材の育成につながっている	-	-	-	-	
	(4) アスリートのセカンドキャリア形成の支援	アスリートのセカンドキャリア形成を支援する方策の検討	スポーツ振興課	〇アスリート県内定着プログラム	アスリート採用企業の発掘調査、県ゆかりのアスリート県内企業就職ニーズの把握、R6年度より企業とアスリートの就職マッチングを本格実施。 【参考資料2-16】	R5年度よりアスリート県内定着プログラム検討を実施、県内企業の人手不足対策にも貢献。	アスリート面談件数 マッチング希望企業数	-	-	3件 9社	-
4 観るスポーツ・楽しむスポーツの機会創出	(1) 観るスポーツの機会の創出	様々な媒体や機会を通じて積極的な発信	スポーツ振興課	〇SNSや公共の場、様々な媒体や機会を通じた積極的な情報発信	プロスポーツチーム等の試合や県内スポーツイベント等についてSNSやパブリックビューイングなどを通じて観るスポーツの機会を創出	地域に対する愛着や地域の活性化に寄与。	-	-	-	-	
	(2) 無関心層等へのスポーツ促進	スポーツに関わるきっかけづくりと後押し	スポーツ振興課	〇運動のきっかけ創出事業	運動やスポーツに接する機会が少ない人に対し、身近に実践できる取り組みを啓発。R5年度はアシックスとの連携事業において、集客施設において体力測定会を実施。 【参考資料2-7】	無関心層への働きかけにより、運動・スポーツに取り組むきっかけづくりにつながった。	-	-	969名	-	
		幅広い世代をターゲットにした日中の運動習慣の環境づくり	スポーツ振興課	〇身近な運動普及啓発事業	山間部など地理的条件などで運動やスポーツに接する機会が少ない人に対し、身近に実践できる取り組みを啓発 【参考資料2-6】	首長部を動かす機会が少ない山間部（R5年度は5村）の住民を対象に、元オリンピック日本代表選手を招いて運動教室を実施。運動することの大切さ、楽しさの再認識につながった。これを機に市町村で身近な運動を推進する取り組みを実施してもらえよう働きかけていく。	参加者数	-	-	145名	-
(3) 山間部での運動実施率の向上	楽しく運動してもらええる施策展開	スポーツ振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 健全性・安全性の確保	(1) スポーツ団体のガバナンス・コンプライアンスの強化	ガバナンス・コンプライアンスの強化	スポーツ振興課	〇指導者育成強化事業（奈良県スポーツ協会補助）	県内各スポーツ団体に研修を実施するなど、ガバナンスコード策定を促進	組織の透明性・公平性・信頼性の確保に寄与している。	-	-	-	-	
		総合型地域スポーツクラブのガバナンス強化	スポーツ振興課	〇クラブアドバイザーによる指導・助言	クラブアドバイザーによる助言等を適したガバナンス強化	今後も適正な組織運営につながるようクラブアドバイザーを通じて支援を行う。	クラブアドバイザーの巡回回数（回）	クラブ67回 市町村3回	クラブ62回 市町村5回	クラブ27回 市町村0回	-
(2) スポーツインテグリティの推進	アンチドーピング教育・啓発事業やハラスメントや暴力行為の根絶に向けた啓発や相談対応体制の構築	スポーツ振興課	〇指導者育成強化事業（奈良県スポーツ協会補助） [再掲]	奈良県スポーツ協会が発発動向の配信（アンチドーピング）を実施。また、奈良県スポーツ協会スポーツ医・科学専門委員会で啓発リーフレットを作成。	国スポ大開催を契機とした持続性のある競技力向上のための体制を新たに構築。R6年度より奈良県競技力向上推進本部（仮称）を設置し、支援を強化。	-	-	-	-		

III スポーツに親しめる環境づくり（活動の場をつくる）

	【施策】	【取組の方向】	【担当課】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R3>	<R4>	<R5>	<R5目標値>
1 施設・環境の整備	(1) 拠点的なスポーツ・健康づくり施設の整備	スポーツ・健康づくりの拠点整備	公園緑地課	〇「まほろば健康パーク」の機能強化	コースの把握や他の既存施設とは異なる付加価値の提供等について検討	12月にまほろば健康パークにおけるインクルーシブ機能検討委員会を設置した。R6年度末の基本計画策定を目指す。	-	-	-	-	
			スポーツ振興課	〇明日香庭球場整備（コート整備やトイレ改修など）	国スポ開催を見据えた芝の復活等、トイレなどの環境整備	国スポ開催及びその先を見据えて計画的に整備を進めている。	明日香庭球場整備事業費（千円）	0	35,048	52,050	-
		スポーツ振興課	〇橿原公園再整備、明日香庭球場改修	防災機能を備えた施設整備	橿原公園再整備等においては防災機能を備えた施設整備を行い、地域防災力の強化につなげる。	-	-	-	-		
		国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室	〇橿原公園整備方針策定	国スポ・全スポ大会後を見据えて、子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、多くの県民が様々なスポーツに取り組める環境を充実させる」という方針に基づき、大会の競技会場の候補となる県立橿原公園の各施設についてリニューアル整備を進めていく。	今年度整備基本方針を策定し、県立橿原公園の各施設についてリニューアル整備を進めていく。	-	-	-	-		

	【施策】	【取組の方向】	【担当課】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R3>	<R4>	<R5>	<R9目標値>
	(2) 民間活力の積極的な活用を検討・推進	民間活力の積極的な活用を検討・推進	公園緑地課	○まほろは健康パークの管理・運営	まほろは健康パークの管理・運営等に対し積極的に民間活力の導入を推進	年間利用者数	年間利用者数(人)	305,888	338,875		330,000
			スポーツ振興課	○ネーミングライツを活用した鶴原公園整備(佐藤薬品スタジアム・ジェテクトアリーナ奈良)	ネーミングライツによる命名権料を活用し、観戦する方やプレーする選手の快適性や安全性、利便性を更に向上させ、施設の魅力を高める	鶴原公園再整備も踏まえながら、今後もネーミングライツをして頂けるよう、民間へ働きかけをしていく必要がある。	ネーミングライツ件数	2	2	2	
	(3) 既存スポーツ施設のファミリーマネジメントの推進	既存施設の機能向上、長寿命化の促進	スポーツ振興課	○県内施設の有効活用	老朽化した施設の計画的な改修・修繕・耐震化	鶴原公園再整備等において、老朽化した施設の長寿命化を図り県内施設を有効活用する		-	-	-	-
			スポーツ振興課	○健康運動場の整備	昭和41年から46年に、スポーツ施設が不足している現状を鑑み、県内市町村に運動場を整備。現在、県内31市町村37カ所に設置	各市町村の現状に応じた柔軟な運用を検討		-	-	-	-
	(4) 身近な公共施設等の整備・活用	身近な公共施設等の整備・活用	健康・安全教育課	○小・中学校、高校体育館施設の一部開放	身近な地域で誰もが気軽にスポーツに取り組める場づくり	R5年度県立学校施設開放事業では、33校で延べ165日の施設開放を行った。		-	-	-	-
				○県立学校グラウンド芝生化(天然芝2高校・3支援学校、人工芝2高校)		地域に開放することにより、運動機会の創出や交流の機会となっている。		-	-	-	-
				○奈良県サッカー協会へのフットボールセンター用地の貸与 ○ナイトラン(鶴原公園陸上競技場無料開放)		公共施設を有効活用しながら、幅広い年代の人々が身近にスポーツに親しめることに寄与。		-	-	-	-
			スポーツ振興課	○自然や歴史を活かしたウォーキングやサイクリング等の周遊型観光の推進	県内の資源を活かしたスポーツイベントの開催やスポーツツーリズム推進に一層取り組む 【参考資料2-3】	トレイルランニングレース「KoboTrail」の開催や奥大和地域を舞台とするサイクルイベントの開催を支援、奥大和地域への若年層などの新たな顧客層の開拓や、地域の価値加価値化により、「道」沿線市町村の連携につながる。ロギング「ロギング in 飛鳥～奈良マラソン～飛鳥(フマラソン)」を飛鳥地域で開催、歴史の特性を活かした奈良の魅力発信に寄与。		-	-	-	-
(5) スポーツ施設のユニバーサルデザイン化や環境配慮型施設整備の推進	ユニバーサルデザイン化。環境にも配慮した施設の整備・改修等の推進、防災機能の強化	スポーツ振興課	○鶴原公園再整備、明日香庭球場改修	年齢、性別、障害の有無にかかわらず、だれもが利用しやすいスポーツ施設となるよう、段差の解消、スロープの設置、多目的トイレへの改修や、AED(自動体外式除細動器)を設置するなど、スポーツ施設のユニバーサルデザイン化を促進	今後、鶴原公園再整備等において、ユニバーサルデザイン化や環境配慮型施設整備を推進。		-	-	-	-	
(6) だれもが気軽にスポーツにふれることができる環境づくり	身近なオープンスペースの有効活用	健康・安全教育課	○小・中学校、高校体育館施設の一部開放【再掲】	身近な地域で誰もが気軽にスポーツに取り組める場づくり	R5年度県立学校施設開放事業では、33校で延べ165日の施設開放を行った。【再掲】		-	-	-	-	
2 情報発信	(1) スポーツイベントや施設情報等に関する情報発信力の強化	県内外へのスポーツ情報発信力の強化	スポーツ振興課	○情報発信力強化	県HPやSNS(Instagram・YouTube)を活用し、スポーツ情報発信を促進	SNS(Instagram・YouTube)を活用し、情報発信力を強化。		-	-	-	-
	(2) デジタル技術を活かしたスポーツDXの推進	先進的な通信技術を活かしたスポーツ・健康づくりの機会創出 ニューノーマル社会にも対応したスポーツ施設へのDX導入検討	スポーツ振興課	○オンラインフィットネス、体操動画	オンラインやVRを用いたスポーツ・健康づくりの機会創出	R6年度において検討。令和7年度より実施		-	-	-	-
	(3) 観光分野と連携したスポーツツーリズムに関する情報の発信	観光分野と連携したスポーツツーリズムに関する情報の発信	スポーツ振興課	○自然や歴史を活かしたウォーキングやサイクリング等のスポーツツーリズムに関する情報発信	スポーツツーリズムやサイクリング、ウォーキング等周遊型観光	奈良マラソンやKobo Trailなどを活用した、宿泊を伴うスポーツイベントを実施。今後も新たな滞在型観光メニューを検討し、スポーツツーリズムを推進。		-	-	-	-
3 地域交流の促進	(1) プロスポーツチーム等様々な主体と連携した地域との交流の機会づくり	地域を舞台にしたプロスポーツチームの活動、地域との交流 トップアスリートとのふれあいを通じたスポーツの魅力を楽しむ機会の創出	スポーツ振興課	○プロ・トップリーグ等の試合や大会の誘致	パンビジャス奈良や奈良クラブ、ジェテクトスティンクスなどのプロスポーツの試合や大会誘致	地域に対する愛着や地域の活性化に寄与。		-	-	-	-
	(2) スポーツキャンプやスポーツ合宿等の誘致	スポーツを通じた地域における交流	スポーツ振興課	○子どもたちをプロスポーツ 試合等へ観戦招待【再掲】 ○トップアスリートとの交流イベントの開催【再掲】	ウエスタン・リーグ公式観戦と出場選手(又は元プロ野球選手)による少年少女野球教室を開催 【参考資料2-4】	子どもたちがトップアスリートと直接ふれあうことで、スポーツに親しむ機会となり、県内スポーツの活性化につながっている。	参加者数		314	145	
			スポーツ振興課 公園緑地課	○奈良大和スポーツのメッカづくり事業(奈良クラブのキャンプ及びサッカースクールの開催) ○スポーツ施設への合宿の誘致	奈良大和の特色を活かしたスポーツのメッカ事業実行委員会を支援。また、地元プロサッカークラブの春期キャンプを下北山スポーツ公園で実施 スィムピア奈良や明日香庭球場のスポーツ合宿誘致	プロサッカークラブの春季キャンプを行うことで、地元住民にサッカーの魅力に触れてもらうと共に、ファンが奥大和を訪れるなど、下北山スポーツ公園の活性化に貢献している。 今後はコミッションにおいても合宿誘致に取り組み、スポーツを通じた地域交流をひろげる。	キャンプ参加人数(人)	35	40	45	
(3) スポーツを通じた友好交流の促進	スポーツによる国際的な友好交流の継続(キャンプ地誘致や交流試合、交流イベントの開催など)	スポーツ振興課	○青少年国際交流事業	次世代を担う青少年同士のスポーツを通じた交流を実施 【参考資料2-17】	R4年度は水泳、令和5年度はバドミントンの選手団を構成し、シンガポールに派遣。今後は、練習等で来県する海外アスリートチーム等との練習会等による交流にシフト予定	派遣選手数(人)		17	13		

	【施策】	【取組の方向】	【担当課】	【事業名】	【事業概要】	【取組の評価や課題】	【関連指標】	<R3>	<R4>	<R5>	<R6目標値>
4 地域経済の活性化	(1) 自然、地勢、景観等、奈良の特性を活かしたスポーツの推進	奈良県の自然、歴史等の特性を活かした奈良らしいスポーツイベント開催・発信	奥大和地域活力推進課	○KoboTrailの開催（南部地域でのトレイルラン）	弘法大師の道を活用したトレイルランニングレース	スポーツを通して奥大和地域への新たな顧客層を開拓するとともに、「道」沿線市町村の文化的価値の向上につながっている。	参加者数（人）	-	149	179	200
	スポーツ振興課		○ヒルクライム大台ヶ原	大台ヶ原ドライブウェイを活用したヒルクライムレース	奥大和地域を舞台とするサイクリングイベントの開催を継続的に支援。地域の魅力発信や、交流人口の増加促進による地域活性化につながっている。	参加者数（人）	-	-	386	-	
	(2) 奈良県の魅力資源を活かしたスポーツツーリズムの推進	県内河遊覧観光につながるスポーツツーリズムの展開・コンテンツの検討	スポーツ振興課	○モバイルグランフォンin奈良、吉野	県内全土をステージとして指定チェックポイントを巡る通年型のサイクリングイベント	奥大和地域を舞台とするサイクリングイベントの開催を継続的に支援。地域の魅力発信や、交流人口の増加促進による地域活性化につながっている。	参加者数（人）	662	965	実施中	-
			道路マネジメント課	○ツアー・オブ・奈良・まほろば	奥大和地域（奈良市東部・宇陀・山添・備前・御杖・東吉野）の地勢を活かしたサイクリングツアーイベント	サイクリングマップの作成・配布、広域的な河遊覧観光サイクルートの整備。	参加者数（人）	-	197	161	-
(3) スポーツコミッション設立に向けた産官学等の連携方策の検討	スポーツコミッション設立に向けた検討	スポーツ振興課	○自転車周遊環境の充実	サイクリングマップの作成・配布、広域的な河遊覧観光サイクルートの整備。	サイクリングマップの作成・配布によるサイクリングルートの周知、サイクリングルートの走行環境改善による、自転車利用環境の向上につながっている。	R6年度よりコミッション設立に向けた調査や有識者ヒアリングを実施。	-	-	-	-	
5 国スポ・全スポ開催を契機としたスポーツ施策の展開	(1) 国スポ・全スポによるレガシー創出に向けた取組検討	レガシー創出に向けた取組の検討・推進	国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室	○オール奈良県による国スポ・障スポ盛り上げ推進事業	令和13年開催の国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会は、県、市町村や競技団体、関係団体、機関が一体となって両大会に参画し、また大会を一度性のイベントで終わらせるのではなく、大会を契機とした持続的なスポーツの振興や様々な地域振興につなげることを目指した取組を実施。	「国スポ・全スポを契機としたスポーツによる地域活性化」をテーマに、市町村・競技団体・総合型地域スポーツクラブを対象としたセミナーを開催。	-	-	-	-	
	(2) 国スポ・全スポ開催を契機とした環境整備	両大会に向けた施設整備の推進と持続的なスポーツの振興につながる取組の促進	国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室	○橿原公園整備方針策定	国スポ・全スポ大会後を見据えて、子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、多くの県民が様々なスポーツに取り組める環境を充実させる」という方針に基づき、大会の競技会場の候補となる県立橿原公園の各施設についてリニューアル整備を進めていく。	R6年度に整備基本方針を策定し、県立橿原公園の各施設についてリニューアル整備を進めていく。	-	-	-	-	